

国土交通省九州地方整備局 局長 森戸義貴様
同 八代河川工事事務所 所長 宗 琢万様
同 川辺川ダム砂防事務所 所長 齋藤正徳様

2023年12月20日

川辺川ダム環境アセスメントのあり方に関する抗議書

川辺川を守りたい女性たちの会 代表 原 育美
川辺川ダムの環境アセスを学ぶ会 世話人 須藤久仁恵
嘉島町の命とみらいを守る会 代表 石本貴子

私たちは熊本市や八代市、嘉島町を拠点に活動する環境保全市民グループです。

先月、国交省より「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポート」が公表され、現在、住民の意見募集と説明会の開催が行われています。

「命と清流の両方を守る」と県知事、国交省が説明してきた流水型の川辺川ダムの環境配慮ですが、環境アセスでは、極めて楽観的な影響予測に基づく一時的な保全対策しか示されておらず、巨大ダム建設による流域への長期的影響の可能性に真摯に向き合おうとする姿勢を感じる事ができず、驚きを禁じえません。

一例をあげると、

- 清流川辺川の象徴であるアユと水質について、ダム工事期間や試験湛水や運用後には「川が濁ることもあるが、自然の降雨の際の濁りと同程度であり、放流操作などで対策を行うことで影響を回避・低減できる」
- レッドデータブックにも記載されている絶滅危惧種クマタカについては、調査範囲が限定的であり影響を十分に考慮できないと指摘されながらも、極めて限定されたエリア内での調査に留まっている上、「生息環境が失われ、繁殖率が低下する」としながらも、「工事の一時的中断や営巣地に立ち入らない等の対策で、影響を回避・低減できる」
- 九折瀬洞の特殊な生態系については、ダム貯水や試験湛水で大きな影響を与えることを認めながらも、「試験湛水期間中のみ、入口に擁壁を設置。湛水後は撤去する。代替口を設置してコウモリや生き物の移動を促す等により、影響を回避・低減できる」
- 人吉の球磨川とともにある水辺の暮らしは、「水は濁らず、魚は減らず、堆砂もしない。工事区域以外なので、人々の快適性は変わらない」

など、すべての項目において環境影響を楽観視、過小評価し、その保全対策も科学的裏付けが不十分なものや、実効性に疑問のあるものばかりです。

甚大で深刻な環境影響が予想されることを認めながらも、すべての項目において「環境影響は回避・低減される」と安易に結論づけられており、到底その評価(効果)を信用することができません。

この程度の内容を環境配慮としたままダム事業が進めば、川辺川・球磨川では深刻で取り返しのつかない環境影響が発生し、「命と環境の両立」との約束とは大きくかけ離れた事態となることは必至です。

私たちは、国交省が、この程度のものを「法律に基づくものと同等の環境アセス」「環境配慮の取り組み」とすることに対し、強く抗議します。熊本県や流域自治体首長もまた、このようなものをダムが建設されることで起こりうる環境影響評価として、また保全・回避対策として認める事ができるのかと疑問を禁じ得ず、納得できるものではないことを申し入れるものです。

川辺川ダムは、その特殊な過去の経緯を経て、計画が中止されたことで、日本一の清流を誇る熊本県を代表する一級河川としての価値を末代まで保てるはずでした。その川辺川に再浮上したダム計画は、私たち県民みんなの大きな関心事です。事業者である国交省には、流域住民だけでなく、県下の一般市民に対しても、説明責任を果たす義務があります。流水型の川辺川ダム計画、および環境アセスメント説明会について、川辺川流域や球磨川上流だけではなく、八代市や熊本市での説明会開催を強く要望します。

なお、年末の説明会は寒波襲来のため、参加者が限定されています。雪や道路凍結のために参加できない人も多く、住民の多くに説明責任を果たしたとは到底言い難い状況です。開催地や時間帯を見ると国交省は、本気で住民に説明する気があるのかと疑ってしまいます。ぜひ、再度、住民が集まりやすい日程での説明会の拡大開催を切に願います。